CITY OF NAGASAKI

メッセージ

本日ここに、「国分寺市平和祈念式」が開催されますことを、被爆地・長崎を代表して心より感謝申し上げます。

国分寺市におかれましては、戦没者を追悼し、二度と戦争はしないという平和への思いを新たにするために、毎年８月 15 日に「平和祈念式」を実施されていることに深く敬意を表します。

1945 年８月９日午前 11 時２分、たった一発の原子爆弾により長崎の街は焼け野原と化し、多くの罪なき尊い命が奪われました。辛うじて生き残った人も心と体に深い傷を負い、今もなおその苦しみは続いています。

被爆者をはじめとする長崎市民は、世界中の誰にも二度とこのような悲惨な体験をさせないために、核兵器廃絶を訴え続けてきました。

しかし、その訴えに反して、核兵器を巡る国際情勢は厳しさを増し、これまで築き上げてきた核軍縮に向けた約束を反故にしかねない動きが顕著になっています。人類滅亡までの残り時間を示す終末時計が史上最短の「85 秒」と示されたことは、こうした危機感を如実に物語っています。

このような厳しい局面にある今だからこそ、私たち市民社会が連帯し、これまで以上に粘り強く声をあげていくことが必要です。

長崎市は、核兵器が人間にもたらす非人道的な結末を知ることこそが核兵器のない世界への出発点であり、世界を変えていく原動力にもなり得るとの確信のもと、今後も世代や国境を越えて被爆の実相を伝え続ける決意です。

本日御参加の皆様方におかれましては、本催しを契機に、戦争によってもたらされる悲劇を自分事として捉え、平和の輪を一層広げていかれることを期待いたします。

結びに、本日御参加の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

令和８年８月１５日

長崎市長　鈴木　史朗